

東京足立 千住工房通信

株式会社千住工房
東京都足立区南花畑3-35-1
グリーンパーク花畑 VI-507
電話 (03) 3859-2720

お問い合わせは
info@senjukobo.co.jp
www.senjukobo.co.jp

無情「騙された」の声多く 便利なネットが生む恐怖

当社、株式会社千住工房社長、杉本あゆみは「いつでもどこにいても同じくオリティをご提供する」ことをモットーに、作業のネット利用を進めてきました。お客様との打ち合わせやスタッフとの連絡もメールやスカイプの利用割合が多くなってきました。ネットの速度が遅かった時代では考えられないような、スタッフが遠くにいるにもリアルタイムで共同作業できる環境が整う中、意外で恐ろしい弊害と言えざる事件が起きました。

半年ほど前からお取引いただいているお客様とは、その打ち合わせをスカイプでやっていたことが、先日初めて先方の会社で顔合わせすることになりました。クライアントの皆様は、杉本あゆみのスカイプでの声にどんな容姿を想像していたのかは不明ですが、実物とのギャップに大変驚いていました。みなさま、くれぐれも実際に会う前に「都合の良い想像」ばかりしないようお願いいたします。

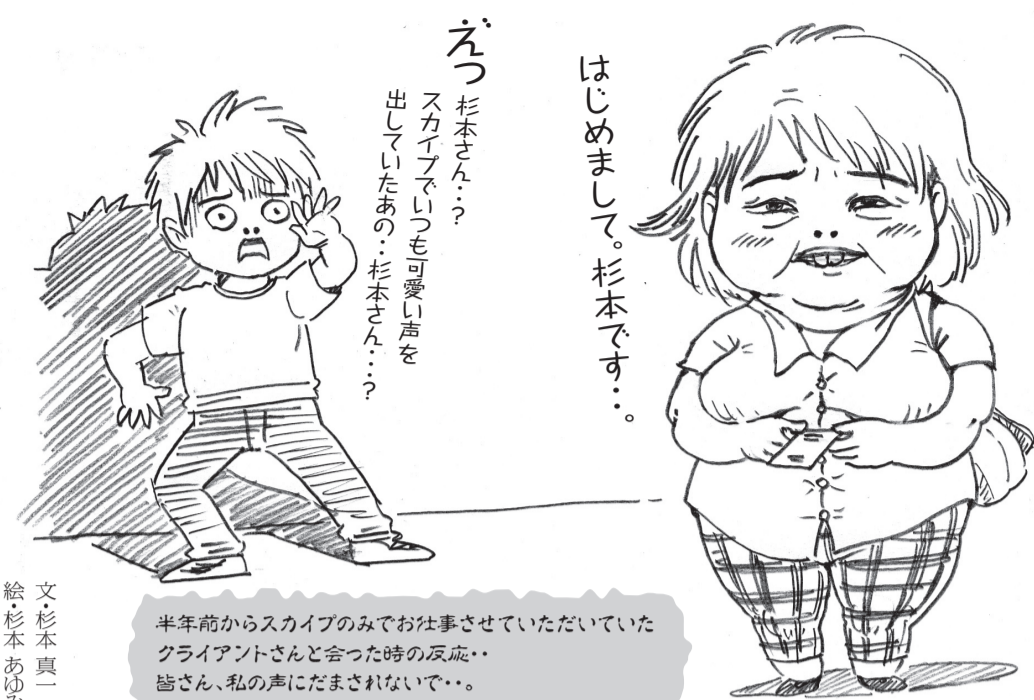
千住 工房 アメリカ支部だより

はじめまして、およそ千住とは無関係なTAROです。突然記事を書いて言われて困惑しているさまをアメリカ西海岸からお届けします。フェイスブックにもまったく書き込まない自分に誰かを乗せさせる文章を提供するという無謀な頼みに応えられるよう、深く考えず日常のどうでもいいサムシングを気ままに書き綴ろうと思います。先日、突然魚が食べなくなりました。我が田舎町では肉料理には簡単にありつけても、魚といえばツナサンドかいかがかわしいスシ屋で出す

寿司に対する冒流のような品がなく、手ごろな値段で魚料理を食べなければ高速道路にのって隣町に行かなければならない。(自分が知らないだけで色々あるのかもしれないが) そんなわけで、行きつけのパンフィックキャッチという魚料理屋に車を走らせ、マヒサンドをお持ち帰りした。辛口な味付けに野菜もたっぷりりでなかなかの美味だと思ふ。個人的にはタルタルソースを使ったものが好きだが、これはこれで。野菜はアボカド、トマト、玉ねぎなど。隙あらばどんな料理にもアボカドをぶち込むのはカリフォルニアのいい所だと思ふ。この店は妙な丼ものも置いてあるが、殆ど頼んだことは無い。お薦めはやはり定番のフィッシュアンドチップスだろう。白身魚のフライに牡蠣やエビなども盛り合わせられなかなか贅沢な感じだ。自分がレストランの回し者のような気になってきたが、単に魚料理屋をもっと開拓しようと思った次第です。

みなさんはじめまして、浮世絵大好き阿部通です。このコーナーでは私の好きな浮世絵について語らせていただきます。第一回は、誰もがその名前を聞いたことがあるでしょう「写楽」についてです。東洲斎写楽についてまず写楽について説明します。写楽のデビューは寛政六年(一七七四年)の五月。大版元寛屋重三郎から二十八枚もの雲母摺の役者絵を出したことがきっかけです。(二十八枚もの絵を一気に出したのは写楽が初めてでした。) 次の二ヶ月後には第二弾として三十八枚もの役者絵を出しました。(ただ今回は大首絵「上半身のみ」の絵はなく、全部全身図の役者絵) そして、最も枚数を多く出した第三弾はその六ヶ月後。その数は六四枚です。種類も役者絵だけではなく新たに相撲絵も描いていま

文と絵・阿部 通



文・杉本 真一
絵・杉本 あゆみ

半年前からスカイプのみでお仕事させていただいていたクライアントさんと会った時の反応… 皆さん、私の声にだまされなないで…。

いや〜、映画ってほんとにいいもんですね！ この歳になってようやくこの言葉を実感しますが、若い頃の私はお金もなく田舎育ちだったこともあり、なかなか映画館に行ける映画を見るという事はありませんでした。子供の頃にみた映画は親に連れて行かれたジャッキーチェンとドラえもんくらいで、TVで見る映画もなかなか最後まで見ることはありませんでした。この業界に就職して、「この名作を知らないの？」と知られてからようやく映画をちゃんと見ようという決意をしました。毎日忙しい日々ではありますが、映画を見てスキルアップとともににより深い人生を追求していきたいと思えます。 そんなわけで、第一回目は『ショーシャンクの空に』です。

銀行の副頭取という最高のエリート社会を生き延びてきた人間が、終身刑となり人生のどん底に突き落とされる中で、自分を見失うことなく、刑務所の仲間たちにも希望を与えていく姿だと思います。 脱獄は全く予想していませんでしたが、表ではいい顔をして裏では私腹を肥やしていた悪党に制裁を加えたところは胸がスツとしますね。なかなかこんな人生を送ることはありませんが、嫌なことがあってもくさらず、希望を持ち続けていきたいもんですね。しかし、下水管を通っての脱出なんて見るだけでもおぞましい。

文と絵・渡辺 紳

『ハンバーガー』

真夜中の仕事に、ついつい食べたくてしまうものを描きました。うーん、体に良いワケ無え！

1111 KOBO

絵・藤野 健

『よせあつめ』

一度こういう感じの絵は描いてみたかったのでこの機会にやってみました。モデルが魚なのは、友達と釣りの話をしながらアイデア出したのでこのようになりました。

絵・杉本 明聡

Liquor and Snack

特に趣味も無い私ですが、日々の小さな楽しみは、少しのお酒とちょっとしたおつまみを食べることかな〜 夜仕事をしている時は、たまに、ワインとおつまみを横に置いて…なんてこともあります。 ということで、作り置きのできる赤ワインに合うおつまみをご紹介します。

材料 フランスパン・・・1本
クリームチーズ・・・約1箱
コンビーフ・・・約1缶
セロリのみじん切り(葉の部分もok)・・・約1/2カップ
マヨネーズ・・・約大さじ3
黒胡椒・・・少々

① フランスパンを半分に切ったの中を厚さ1cm残してくり抜く
② Aを混ぜる
③ ①に②を詰める
④ 全体をラップに包んで冷凍庫で一晩置く。
⑤ 冷凍庫から出して少ししたら包丁が入るまで食べる分だけ厚さ1.5cmずつ位に切って、(残りはまた冷凍して取って置けます) 半解凍ぐらいが食べごろです。

昔、知り合いに教えてもらったおつまみですが、私はコンビーフは普段料理に使ったことがなかったので斬新な感じがしました。一度凍らせるのがポイントです。(でないと、中身がゆる過ぎるのです) それぞれの分量はお好みで大丈夫です。

文と絵・小林 雅代

写楽の短い活躍

結局、写楽の正体は謎のままです。しかし謎だからこそミステリアスな魅力があったこと、他の浮世絵師にはない考え方を持っていたこと。そんな写楽を私は尊敬しています。

しかも今まで描かれなかった背景も描かれています。最後となった第四弾はその二ヶ月後で、少ない十二枚ですが、それでも役者絵と相撲絵の二種類を描いていままいます。しかし、その後姿を消してしまいました。 こうして写楽の活躍は十ヶ月のみ。それでもこの短い中で百四十点もの作品を残しています。

文と絵・阿部 通